

藤琴川と粕毛川は、高い軟度と透明度で知られている白神山地の原始林を下り、藤里町で合流する。合流点は、藤里町の南部で米代川に入り、さらに米代川は日本海に流れ込む。

長さ 56.5km の藤琴川は、藤里駒ヶ岳（1,158m）にその源を発している。藤里駒ヶ岳は、世界自然遺産白神山地のすぐ外に位置する山である。たくさんの小さな支流が太良峡を通して藤琴川に流れ込み、藤里町の平地へと下ってゆく。山から材木を降ろすための線路が建設される前は、丸太を山から藤琴川の下流へと流して運んでいた。

長さ 36km の粕毛川は、山頂が世界自然遺産白神山地のバッファゾーンにあるニツ森（標高 1,086m）の山腹斜面に源を発している。秋田県で唯一の流域を持つ河川である粕毛川は、保護された世界自然遺産コアゾーンに位置する。粕毛川はかつてそのまま町に流れ込んでいたが、1970 年に素波里ダムが建設されたことにより、狭い谷が氾濫し、素波里湖が誕生した。現在、南東の湖畔には、キャンプ場、ピクニックエリア、レストランが並んでいる。

藤琴川と粕毛川は、水質が優れており、また海へ自由に行き来できることから、アユが生息していることで有名である。アユは回遊魚で、秋には川を下って海の近くで産卵する。アユは孵化すると海へ移動し、そこで数ヶ月暮らしてから、春になるとまた上流に戻ってくる。しかし、ダムの建設によってアユの移動が制限されたため、アユが生息できる川が少なくなっている。素波里ダムの建設によって、粕毛川のアユの生息地は下流に限定されているが、どちらの川もアユの個体数を支えている。

藤琴川と粕毛川は、アユのほかにイワナやヤマメも有名である。粕毛川では、素波里ダムの下流域での釣りに限定されている。どちらの川でも入漁許可が必要であり、藤里周辺の釣具店や商店などで取得できる。

川はまた、「沢歩き」スポットでもある。沢歩きは、川床に沿って歩き溪谷を横断するアクティビティで、温暖な気候の時期に行われる。沢歩きでは、歩道がないため、かつて川や小川を利用して白神山地の森を越えていた地元住民たちの足跡をたどる。